

豊高ギャラリー (16)

平成29年2月2日(木)

豊高ギャラリー第16回目は、デッサン(1)、アクリル画(2)、書道(4)の作品をご紹介します。ご堪能ください。なお、豊高職員玄関1階の廊下に飾ってあります。ご来校の際には是非ご覧ください。



題名「共生」

【感想】

現代では近代化が進む一方で、多くの動物が生息地を追われています。居場所を奪うのではなく、人と動物が共に生きていけるような世の中になったらいいという願いを込めて描きました。

【講評】

大きな画面を鉛筆だけで構成することにチャレンジしました。人やライオンはある程度描けていますが、本来計画していた構図は時間不足で大幅に変更せざるを得ませんでした。時間配分と集中力のコントロールが課題です。



題名「少女達の夢の行く末」

【感想】

不思議の国のアリスをモチーフに“アリスの帰れなかった世界”を描きました。ただ何を描くかで長い間考えあぐねていたので実際に描く時間が2日程度しかなく、良いと思ったアイディアに対し、かなり低いクオリティーになってしまったのがとても残念です。それに全員の服のデザインも細かく決めておいたのに全然入っていないのも気になります。次はちゃんと計画的に頑張りたいです。

【講評】

7名の人物の重なりを意識しながら組み立てた構図はなかなか興味深いです。画面左下の処理に作者の苦勞が見られます。背景の書き込みの密度を上げることができれば更に良くなったでしょう。ここでも計画性が今後の課題です。



題名「フルーツタルト」

【感想】

フルーツタルトを描きました。工夫したところはタルトの質感です。食べ物を描いたのは初めてだったので大変でしたが、描いていてとても楽しかったです。次はもう少し時間をかけて描きたいです。

【講評】

色も明るくタルトの光沢が良く描写されておりおいしそうです。光沢のポイントであるハイライトの白色のバリエーションを増やせると更に良くなります。実はそういう視点は、皿の質感を出すことにもつながっているのです。

題名「臨牛造極像記」

(りんぎゅうけつぞうぞうき)



【講評】

中国北魏時代の書。力強さを前面に押し出し、厳しい線で書かれた迫力ある書です。

【読みと大意】

「一切の衆生みなこの福を蒙らんことを」命ある全てのものがみなこの福をいただけますように。

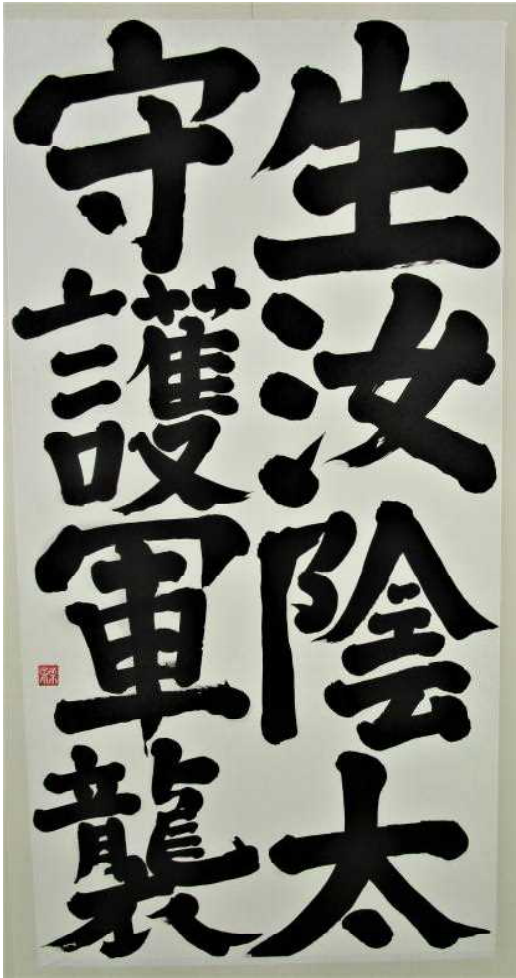
題名「翔」



【講評】

自然体で迷いのない書です。柔らかな筆の動きが感じられる、余白の美しい作品です。

題名「臨顔氏家廟碑」
(りんがんしかびょうひ)



【講評】

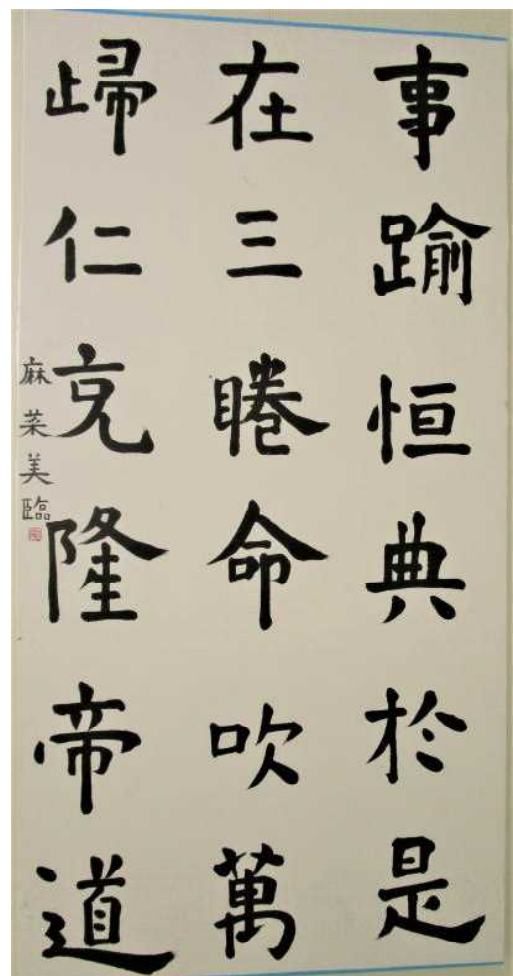
中国唐の時代、顔真卿の書。

一点一画入念に書かれ、どっしりとした存在感のある書です。

【大意】

郡の長官の太守となり、軍を護った。

題名「臨孔子廟堂碑」
(りんこうしびょうどうひ)



【講評】

中国唐の時代の虞世南の書。整齊美として有名な書です。力を内に含んだしっかりした強い線で最後まで書いています。

【大意】

皇帝は人民を慈しみ仁を大事にし、皇帝としての立派な道を歩まれました。